

に い が た ろうしきょう NEWS

新潟県老人福祉施設協議会広報誌

2019. 12. 20 NO. 37

巻頭シリーズ・元気な笑顔が素敵！ すまいる介護マン



1

施設は学校、体育館など、公共施設が集まる一画に。吉川区のシンボル「尾神岳」と、名峰「米山」が、施設から間近に見える。



2

プロ顔負けのイベントポスターはスタッフさんの手作り(写真左)。部屋の入り口にはそれぞれ異なる温かい装飾が施されている(写真右上下)。

地元の方と、ああしようこうしよう、一緒に地域を作っていきたい。



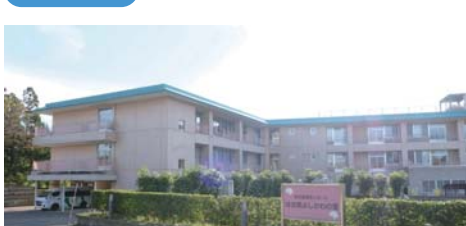
社協は、地域に根付いた仕事。やってみたい、と思った。知らない土地で、不安もいっぱいだったけど。

すまいるマン 小林 湧 さん

- 所属 特別養護老人ホーム ほほ笑よしかわの里
- 経歴 1994年8月新潟市生まれ 新潟青陵大卒～上越市社会福祉協議会に入職。同会が運営する現職場に勤務。介護職。
- 趣味 インドア派。アパートにこもって映画、読書三昧の休日。好きな映画は「ジョーシヤンクの空に」。



館内エントランスホールから突き当たると、手作りの作品がお出迎えてくれる。



特別養護老人ホーム ほほ笑よしかわの里

- 社会福祉法人 上越市社会福祉協議会
- 特別養護老人ホーム 30名
- ショートステイ 10名
- 新潟県上越市吉川区原之町1819-1
- TEL 025-548-3600
- URL <http://www.jouetushisyakyo.jp/yoshikawa/yoshikawa-shisetsu01/>

地域と深く関わる仕事。

■就職の理由 大学に入る前は、漠然と「人の役に立ちたい」と思っていました。大学で福祉と心理カウンセリングを学ぶ中で、地域福祉に関心を持つようになり、社会福祉協議会(社協)に入職しました。中でも上越社協は、他の社協と異なっていて、新卒採用者は全員、現場に配属されるんです。新卒でいきなり施設の指導を、というより、現場の大変さを知ることから始めるという方法に惹かれました。

■仕事のポイント とは言え、初めての土地。初めての仕事。慣れないことだらけで、利用者様からは「お前はだめ」「やめろ」と言われて。先輩にフォローしてもらって、少しずつ学んできました。特に大事なのがコミュニケーションの技術。どんなに重度の認知症の方でも、相手がしゃべれないからこちらで語りかけなくていいわけじゃないんです。敬い、お手伝いをさせて頂くという、相手と互いの関わり方を心がけています。

■忘れられないこと 初めて担当した利用者の男性でしたが、すごく優しい方でした。私のミスですりむき傷ができて血がにじんだことがあったんです。うろたえて、動揺して、落ち込んで。今思うと、そういう経験が必要だったのかな、と思います。その後も失敗のたびに気をつけることが増えて、それが自分の成長につながったんじゃないか。最初は苦しくて難しくて不安しかありませんでした。この頃やつと、お一人ごとに異なる性格をもつと良く知りたい、と思えるようになりました。少し余裕ができたのかな。

■今後の自分 今、介護福祉士の受験勉強中です。その先は、現場を経験した上での主事、相談員になりたい。施設に入ったらご家族と関係がなくなるのではなく、常にご家族、地域全体と深いかわりを持つ環境ができればと。理想論かもしれませんが、夢なんです。

第24回

新潟県老人福祉施設研究大会

新時代『令和』につなぐ ～ 介護イノベーションと忘れない福祉の心～

令和元年 9月10日(火)～11日(水)



実行委員長

関原 礼敏

特別養護老人ホーム

悠久の里 施設長

研究大会を終えて

令和元年9月10日から11日にかけて糸魚川市市民会館等において、第24回新潟県老人福祉施設研究大会が開催されました。

初日の記念講演では、女優の倍賞千恵子氏からは歌を交えながら自らの女優人生を、社会福祉法人佛子園 専務理事の村岡 裕氏からは福祉の面白さや可能性を感じるお話をしていただきました。会員だけでなく地域からも多くの方々に参加いただいたことで、私たちの仕事や福祉について身近に感じていただく良い機会になったのではないのでしょうか。

二日目の分科会は講演と事例発表でしたが、どの分科会も講師の先生が熱のこもった講演をされており普段の研修では得がたい知識や他施設の実践例を学ぶ貴重な機会となったかと思います。

私共第5ブロック部会は、平成28年12月に起こった「糸魚川大規模火災」の復興の一助になればとの想いから開催地を糸魚川市と定め準備してきましたが、大会当日は私の力不足で至らぬ点も多くあり、参加された皆様にはご迷惑をお掛けしたかと思えます。このような中、高橋会長や実行委員をはじめ多くの方々からご協力をいただき大会を無事に終了することができました。この場をお借りし心より御礼申し上げます。

日 程

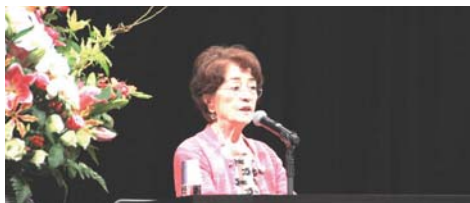
第1日目・9/10(火) 全体会〔糸魚川市市民会館〕

○式典

記念講演Ⅰ

演 題 「歌うこと、演じること、そして生きること」

講 師 女 優 倍賞千恵子 氏



記念講演Ⅱ

演 題 「地域の未来を切り開く福祉の心」

講 師 社会福祉法人 佛子園 専務理事
公益社団法人 青年海外協力協会(JOCA)
IWANUMAWAY事業部 スーパーバイザー
村岡 裕 氏

第2日目・9/11(水) 分科会

○第1分科会・第5分科会〔ホテル國富アネックス〕

○第2分科会・第4分科会〔ヒスイ王国館〕

○第3分科会〔糸魚川市市民会館〕

第1分科会

社会福祉法人における「地域福祉推進と地域貢献」

～社会福祉法人としての使命と地域貢献等の取り組みについて考える～



村岡 裕 氏

社会福祉法人佛子園専務理事の村岡裕氏から全体会の記念講演に続き、「福祉でまちづくりから福祉はまちづくりへ ～ごちゃまぜの福祉と地域～」の演題で、地域の住民と子供、高齢者、障害者等いろいろな人が関わって多くの事業に取り組まれていることを紹介していただきました。その後、5施設の皆様から「地域福祉」「地域共生」「社会貢献」について実践している活動を発表していただき、意見交換や村岡講師から講評をいただき、参加されている皆様のさらなる地域貢献に向けて、参考となる充実した分科会であったと思っております。ご協力いただきました皆様に感謝申し上げます。

(第1分科会担当 岩崎良之)

第2分科会

中重度ケアの実践

～中重度の方々を支える認知症ケア、看取りなど専門的ケアの実践～



原 等子 氏

第2分科会では中重度ケアの実践を主題において新潟県立看護大学原等子准教授より講演があり、認知症を取り巻く社会情勢及び行政の現状説明や認知症の人と家族の会で取り組んでいる活動の説明を受け、家族の心のケアや認知症の方も共生出来るような支援や社会構築の必要性を感じた。

また終末期においてライフステージの主人公である本人の意思決定や、最期の在り方をどの様に支援できるか考えていく必要があると感じた。事例発表では認知症の方への関わり方や終末期における在宅サービス・入居サービスの取り組みなど、それぞれの視点から中重度の方を支える内容のものであった。

事例発表を参考に自施設でも終末期の方や中重度の方のケアの深化を図りたいと感じた

(第2分科会担当 金澤正史)

第3分科会

多職種協働・連携・チームケアの実践と取り組み

～自立支援に向けた施設内外の専門職と多職種協働・チームケアの実践～



奥山 卓 氏

第3分科会では、介護・看護・リハビリ・栄養等多職種連携による自立支援に向けた施設内外の専門職との多職種協働・チームケアの実践や取り組みについて学びました。講演では、医療法人和康会 介護事業部マネージャーの奥山卓氏から、「多職種協働による自立支援介護の取り組みについて」ご講演いただき、介護保険制度下で手に入る情報を用いた論拠の抽出方法・役に立つアセスメント方法とそれに基づく多職種協働の方法について伝えられました。講義は大学の授業のような参加型形式で行われ、参加者からの意見を聞きながら進められました。また、5事業所から自立支援に向けた多職種連携の取り組みについての発表がなされ、最後に奥山氏より発表の講評として、取り組み内容の良い点と今後に向けての改善ポイントを一例ずつ丁寧にご指導いただきました。

(第3分科会担当 加藤真由美)

第4分科会

魅力ある職場づくり

～多様な人材が安心して能力を発揮できる職場環境の整備～



丸山一芳 氏

第4分科会では、東海学園大学経営学部准教授の丸山一芳氏をお招きし、「魅力ある職場づくり」についてご講演頂きました。自分自身にとって魅力的な職場とは何か、これから益々人手不足になっていく時代をどのように乗り越えていくかを改めて考えさせられる時間でした。また、午後からは5事業所の事例発表が行われ、介護ロボットなどのメリット・デメリット、ICTについても勉強になりました。厳しい環境の中でもより良い職場づくりに向けて取り組まれている様々な工夫や努力を会場全体で共有でき、大変有意義な研修会でした。

(第4分科会担当 和田菜津子)

第5分科会

「未来をつくるKaigoカフェ」in新潟

～介護・福祉の魅力について語り合う仲間づくり～



高瀬比左子 氏

第5分科会では、介護に関わる人々が思いを語り、学ぶ、対話の場づくりを企画運営されている「未来をつくるKaigoカフェ」代表の高瀬比左子氏から「Kaigoカフェ」を始めたきっかけやこれまでのカフェ運営の経験をもとに、立ち上げ、設立のポイントや運営のコツなどをテーマにご講演いただきました。参加者が皆ファシリテーターとなり、ワールドカフェ方式を活用しながら様々なテーマについて話し、語り合いながら参加者の皆様との交流を深めることができました。自分の地域で求められている対話とは何か考える機会となり、この取り組みが施設、事業所、そして地域へ広がっていけばありがたいです。

分科会運営につきましてご協力いただきました皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。(第5分科会担当 松田宏基)

企画研修 第2回研修会

令和元年7月4日(木)

職員を育成する上で肝要な聞く力・受け止める力・伝える力などのコーチングスキルの習得を目指し研修会を実施しました。

講義・演習「管理職にとって必要不可欠なコーチングスキルを身につける」

～自らの心も元気に、そして職員の可能性を引き出すコーチングスキルを一日かけて楽しく身に付けます～

講師：特定非営利活動法人WinWin 育成協会

認定ファシリテーター・主任介護支援専門員

真田富紀氏



参加者の声

特別養護老人ホーム大浦の里二号館 介護主任 濱瀧賢一

今回の研修を通して、職員の指導・育成にどのようなアプローチが必要になり、効果的かを学ぶために参加しました。

コーチングには「聴く」「承認する」「質問する」といった三大スキルがあり、人のやる気や能力を引き出すコミュニケーション技術で、人が自ら考えて行動して成果がでるようにサポート（寄り添う）ことが大切だと話されました。

成長を促すには、相手を認め自ら考えて行動して

もらうことが必要だということが分かりました。そのためには、話をよく聴き、相手にどのような価値観や思いがあるのか常に考えながら知り、ただ話を聴くのではなく相手に考えてもらえるように質問しながら自己決定に導いていけるよう、客観的な側面も取り入れていきたいです。

今回学んだことは入居者様・利用者様とのコミュニケーションにおいても効果的だと思うので活かして共に成長していきたいと思います。

施設(うち)の一品

第2ブロック

特別養護老人ホーム大浦の里

大浦の里では、リクエストが多い献立や日本各地の郷土料理を提供するお楽しみ御膳を実施しています。今回は10月のお楽しみ御膳から「鮭ごはん」と「かぼちゃの大学芋風」を紹介します。「鮭ごはん」は、旬の鮭と新米を使い、鮭を焼きほぐし、大葉とごまで風味を出しています。「大学芋風」は、揚げずに蒸して食感を残すように工夫をしました。季節を感じてもらえるような食材を取り入れ、秋らしい色彩を意識しました。利用者様からは、「旬のものが食べられてうれしい」「収穫を思い出し懐かしい」「どれもおいしい」など大好評でした。これからも、利用者様から楽しみにしてもらえるような料理を考え提供していきたいです。(担当：杉山友香)



第3ブロック

ケアハウスサンホーム

サンホームでは、毎月季節感を取り入れた行事食と全国各地の郷土料理を提供しています。また、入居者の方にお手伝いいただいている畑で収穫する、季節ごとの野菜も取り入れています。毎年10月になると、入居者と保育園の園児たちとで芋掘りを行い、収穫した里芋・さつま芋を使用し、芋煮会を開催します。食堂の席をいつもと違う配置にし、いも煮汁は鍋ごと食堂の中央へ。皆さんの目の前で盛りながら熱々の芋煮汁を提供しています。おかわりも自由。皆さん、おかわりをたくさんしてくださり、美味しかった～と満足そうな笑顔を見せてくださいます。(担当：倉島暁子)



施設(うち)の自慢

特別養護老人ホーム三和愛宕の園

施設長 丸山裕考

施設(うち)の自慢は、地域のいろいろな企業とコラボレーションし新しいことを行う「企画力」とそれを実行できる職員の「フットワーク」です。

地域のスーパーとコラボした売店の設置や地域の酒蔵とコラボしたミニ酒祭りの開催、吉野家とコラボして施設を牛丼店にしたり、地域の花屋とコラボしてハーバリウム教室を行ったりという企画を行ってきました。

そして、何よりも、いろいろな提案を形にし、実現してくれるのは、それを支え、実施してくれている職員のフットワークの良さに他なりません。



「ONの私」



「OFFの私」



第1ブロック
特別養護老人ホーム東蒲の里
介護職員

江川貴志さん

江川さんは、入社して4年目になりましたが、今や秋の作品展に出展する作品作りの中心的存在となっています。ご利用者が参加しやすい様に毎年、試行錯誤しながら取り組んでいます。ご利用者へのケアにおいても、色々なアイデアを出し、熱い気持ちを感じることがあります。夏は、同僚と海釣りをしており、楽しそうに趣味の話をしている様子を目にします。最近では新しい趣味が一つ増えて仕事に趣味に充実しているようです。



(紹介者: 大江 慎)



第4ブロック
特別養護老人ホーム七川荘
介護職員

上村翔太さん

いつも優しく利用者様と接し、礼儀正しく華麗な身のこなし。私達熟女には「あとは自分がやりますから」と心配りも。まさしくスポーツで培ったもの。

彼のOFFは「卓球」だそうです。中学生時代から十人以上もしているそうで学生時代の恩師に誘われて社会人となった今でも多くの大会に出場しているそうです。「強い方が大勢いるんです」と謙遜していましたが仕事に支障のない程度に(怪我をせずに)今後も卓球に、もちろん仕事でも活躍を期待しています。



(紹介者: 佐野千晴)

尊い命を守ること

特別養護老人ホームはまゆう 施設長

渡辺 弘子さん

●施設長リレーコラム●



6月18日(火)22:22に山形県沖で地震が発生し、新潟市西区においても震度4の揺れとなり、間もなく1mの津波注意報が発令された。私の自宅からほど近い小規模多機能ホームに車を走らせ、施設の窓を外からノックするも応答がない。突然の大きな揺れで夜勤職員は、一人で心細く思っているのではないかと気がかりではあったが、施設内は静かで大きなトラブルが起きている様子は無いと判断し、日本海の間近にある特別養護老人ホームに向かった。

特養は海拔6mの土地に建っているが、東日本大震災の情報から津波注意報1mと言われても何が起ころうとも不思議ではない。特養付近の高台に近づく、近隣の住民が高台の避難場所である寺尾中央公園に向かって車が渋滞していた。数台のパトカーとすれ違いながら高台とは反対の海方向に車を走らせた。『職員にも家族がいる。家庭には守らなければいけない子どもたちや、高齢な両親がいる。地域の人が高台に逃げているのに、施設に集合とは言えない。3人の夜勤者だけで2階へ避難させられるだろうか。夜勤職員の若い命も守らなくてはならない。6mを超える津波が来たら、どうなるのだろう。』答えが見つからないまま、ハンドルを握り夢中で施設に

向かった。

施設に到着すると、駆けつけていた防災委員より「園長！1階のご利用者を2階へ避難させます！」と報告を受ける。防災委員は手際よく職員に指示を出し、夜勤職員と総出で1階のご利用者を2階へと非難開始。気が付けば、看護師や相談員も自ら駆けつけて下さり、翌日の1時過ぎに全員の避難が完了した。職員一人ひとりの頼もしさと感謝の気持ちで胸が熱くなった。その時、テレビのニュースで津波10cm到達と報じていた。特養が落ち着いてから、3階ケアハウスへ向かうと、ご利用者はケアハウス相談員と一緒に食堂のテレビで地震のニュースを見入っていた。

そして、10月12日深夜に台風19号が発生。今年度、4月に異動してきた私は、24時間運営する施設の施設長として、ご利用者や職員の尊い命を守らなければならない責任の重さを痛感することとなった。災害への準備や訓練は、どんなに万全を尽くしても万全では無いと思うのである。現状に満足することなく、どんなに経験年数が短い職員であっても、安心して業務にあたれるよう、災害への準備や訓練を繰り返し実施していきたいと思う今日この頃である。



6/18、2階へ避難後の様子。地震のニュースで眠れない方も。



ケアハウスのご利用者同士で麻雀を楽しんでいます。



踊りのボランティアさんとご利用者や職員と一緒に踊っています。

事業所所在地	新潟市西区上新栄町 1-2-12
運営事業者	社会福祉法人 更生慈仁会
事業所の種類	特別養護老人ホーム 60名 ショートステイ 20名
連絡先等	TEL 025-260-9555 FAX 025-268-1552

発行所 一般社団法人 新潟県老人福祉施設協議会
新潟県新潟市中央区上所 2 丁目 2-2 新潟ユニゾンプラザ 2F
電話 025-281-5534 発行人 高橋是司
にいがたろうしきょう NEWS 令和元年12月20日発行